

## 例 言

1. 本書は、塩を収納した容器（土器）についての文献目録である。その容器とは、第1に「焼塩壺」（蓋を伴う小形の土器で、焼塩の製造と容器を兼ねた容器である。この焼塩の多くはあらかじめ焼成した土器に粉碎した粗塩を詰め、蓋をして壺ごと焼いて塩を精製したもの〈小川望 2001年4月〉）、第2に「花焼塩容器」（粗塩をお菓子の落雁のように型に入れて乾燥させて焼いた花焼塩を入れた容器（土器）、蓋を伴う）、第3に「焼塩壺」・「花焼塩容器」以外の塩容器（土器）である。これらの塩容器に関する研究論文・研究ノート、埋蔵文化財発掘調査報告書などの文献目録である。研究論文・研究ノートは少数であり、大部分は発掘調査報告書である。
2. 文献目録の時代対象は、主として戦国～江戸時代で、発行年は1950年～2021年であるが、少数1950年以前もある。
3. 文字の表記のうちアラビア数字（1. 2. 3...）は、原則的に半角とした。また、ローマ数字（Ⅰ. Ⅱ. Ⅲ…）等はアラビア数字（1. 2. 3...）に変更している。
4. 文献目録のうち「研究論文・研究ノート」は発行年月の古い順とし、「発掘調査報告書」は都道府県別として、「都道府県コード及び市区町村コード表」の順に配列している。
5. 文献目録作成にあたっては、「小川望 2008年9月『焼塩壺と近世の考古学』 同成社」の「各章の記載内容」・「引用参考文献」に負うところが大きい。記して謝意を表す。なお、発掘調査報告書は、全国各地から膨大な量の部数が毎年発行されており、焼塩壺などの塩容器記載の発掘調査報告書を、すべて網羅することはできていない。また、「刻印などの特記事項」の刻印は、代表的なもので、すべてを紹介しているものではない。
6. 本書の編集は、岩本正二（日本塩業研究会会員）が行った。